

令和8年度第1回学校運営協議会 記録

期日 令和8年6月15日（月）

時間 9：30～11：30

場所 小中学部校舎・音楽室

○出席者

学校運営協議会委員 5名 A委員（社会福祉関係者）
 B委員（地域関係者）
 C委員（地域関係者）
 D委員（企業関係者）
 E委員（社会福祉関係者）
 F委員（PTA関係者）

学校関係者 9名 校長、副校長3名、事務長、総括教務主任、
 小学部長、中学部長、高等部長

～ 授業参観及び施設見学 ～

次 第

- I 開会のことば
- II 校長あいさつ
- III 協 議
 - 1 令和8年度学校経営計画について
 - 2 特別支援教育のセンター的機能について
 - 3 開かれた学校づくりについて
 - 4 いじめ防止対策について
 - 5 学校評価実施計画について
 - 6 その他
 - （1）令和7年度卒業生の進路状況
 - （2）進路に向けた取り組みについて
- IV 意見・提言
- V 閉会のことば

《委嘱状の交付》

書面にかえさせてもらう旨の説明

《自己紹介》

参加者自己紹介

《授業見学及び施設見学》 9:30～10:15 （＊見学予定時刻通り）

- ・小学部は特別活動等の授業、中学部は校内実習

授業参観に加え、校舎及び施設設備の状況について説明しながら校内を案内した。教室数が不足するなど限られた環境の中で、各教室や施設を工夫して活用している状況について説明した。また、実習期間中であつたため、作業棟における実習の様子についても参観いただいた。

次 第

I 開会のことば（10:15）

II 校長あいさつ

- ・2校舎制（穴口・青山）がさらに充実するようにすること、社会参加につながる環境整備に努めることなど挨拶。

III 協議

1 令和8年度学校経営計画について（校長）

- ・校長より説明

資料2頁「3経営の重点」を中心に、教育目標や学校経営の重点を説明。経営方針の（3）に不適切な指導の根絶を加えたことを説明。また、経営の重点の中から下線部を引いた三つを最重点と位置付けていることも説明。①教育課程の見直しを進めていること、②同年代の交流や異年齢の地域の人々のつながりを育んでいきたいこと、③地域貢献を通して特に中学部・高等部は「役に立った」という実感を育み、小学部では作品応募等を通して地域への発信を行っていることを説明。

（質問や意見はなし）

2 特別支援教育のセンター機能について（高等部副校長）

- ・センター機能としての役割について資料を基に、成果と課題について説明。

【E委員】

- ・センター的機能の取組を以前から推進していることに触れ、マンパワーの部分でかなり忙しい状況で対応していることに対しての感謝の言葉があった。

3 開かれた学校づくりについて（高等部副校長）

- ・資料を基に次回令和9年2月10日（水）は高等部校舎で実施予定であることなどを説明。

（質問や意見はなし）

4 いじめ防止対策について（高等部副校長）

- ・資料を基に本校のいじめ防止基本方針を説明。補足で年間7回開催したいじめ対策の会議において、疑いを含むいじめ事案53件について協議し、そのうち31件をいじめとして認知したことを説明。

【A委員】

- ・行っている会議には外部の方が入っているかの質問。

【高等部副校長】

- ・会議には外部関係者は入っていないが、重大事案発生時には外部の方を呼ぶことを説明。

【B委員】

- ・いじめ事案の対応については、県教育委員会に報告・相談しながら進めていることについて補足説明があった。また、ネットの世界での問題は大変苦慮していることも付け加えて説明があった。

【E委員】

- ・本園の子どもの認知の問題もあり、訴えにつながらないこともある。自身の経験を基にトラウマにならないような対応を望むという意見をいただく。

5 学校評価実施計画について（小学部副校長）

- ・資料を基に説明。今回いただいた意見を踏まえ、今後職員会議に提案し、アンケートの項目の精査を行う。経年評価のために大きく変えることは難しい旨を説明。
- ・集計結果について、2月の学校運営協議会で報告し、公表する。

（質問や意見はなし）

6 その他

（1）令和7年度卒業生の進路状況について（高等部副校長）

- ・中学部及び高等部卒業生の進路先と進路の取組（高等部）について、資料を基に説明。

【B委員】

- ・事業所名に書いているフィールドの事業内容について質問。

【高等部長】

- ・詳細は把握していないが、調理補助などしていると聞いている。

【B委員】

- ・業務内容についても確認しておくべきと意見が出された。

【D委員】

- ・盛岡地域の就労継続支援A型事業所の数についての質問。他地域から、就労継続支援B型事業所から就職希望の相談を受けた際、その地域では就労継続支援A型事業所がないのかという説明だったので、盛岡地域の状況を知りたいとの質問。

【B委員、F委員】

- ・就労継続支援A型事業所は最低賃金が保証される、就労継続支援B型事業所は工賃として支払われること（B委員の知人は月収7万円とのこと）。補助金が減って事業継続を断念する、採算が取れなくなって事業から撤退することがあると聞く。特に沿岸地域に就労継続支援A型事業所がないと聞いたことがあるなど情報提供があった。

IV 意見・提言

【A委員】

- ・学校の設備が整っていないことの説明をしていただいた。福祉事業所でも恵まれた環境でなくとも工夫して対応している。近頃は便利な時代になった。みたけ支援学校の経験は、不便が必ずしも残念なことではなく、身になっていると思っている。

【B委員】

〔感想〕

- ・作業棟の部屋を見ることができた。校舎が古いことに関しては大震災で予算の大半が災害復旧に回ってしまったのが大きい。その分、教育関係まで回ってこない現状がある。校舎を丁寧に使用して学びの保障をしていただいていることに感謝したい。

〔お願い〕

- ・教育は誰のために行うのか。私は尊い子どもたちの幸せのためだと思っている。使命感をもって接するようにお願いしたい。近頃、新聞報道等で教職員の不祥事報道が多い。襟を正して原点を確認してほしい。事務局に対しても予算が十分でない中、環境整備などの協力をお願いしたい。

【C委員】

- ・私自身様々な役割があるが、今回は自治会長としての立場でのお願いをしたい。自治会の中では登下校時の車列についてのクレームが多い。グリーンベルトの部分にも勢いよく侵入する車が多いのでスピードを落としてほしい。自覚するように注意してほしい。なお、9月から時速30キロ規制が導入される方向である。

【D委員】

- ・開かれた学校づくりで地域との結びつきの話を伺ったが、連携の範囲を広げて盛岡市内の支援学校との結びつきを強化してはどうかとの提案があった。技能認定会に参加し狭い範囲で作業製品の紹介があったが、合同の製品販売会を行ってみてはどうか。合同で行っていくうちに製品の質の競争が生まれるのではないか。

【E委員】

- ・生活支援の立場で話をするが、特別支援の難しさは理解している。虐待事案などもあるので、学校は地域に開かれておくべきと思っている。

【F委員】

- ・今ある資源を工夫して使っているありがたさを感じているが、トイレのスペースの確保は必要と思うので、予算の訴えでも難しいかもしれないが環境を整えてほしい。滝沢の農作物（ネギ、ニンニクなど）の収穫する際に薄皮むきなど出荷のために必要な活動は多いので、そこに農福連携などできるのではないか。農福マルシェへの参加なども考えられる。
- ・送迎に関わることから、開門時間について改善を検討してほしいとの意見があった。

校長より

- ・ご意見ありがとうございました。卒業生のアフターケア、コンプライアンス、登下校の車の問題、製品販売のこと、滝沢市内の農業とかかわりなど、それぞれの取組が断片的にならないよう可能な範囲で関連付けながら進めていきたい。

V 閉会のことば

今回は2月に高等部校舎で開催予定である。よろしくお願いしたい。